

 insectFusion

未来を救うコオロギ

たんぱく源として昆虫食を届ける

岡山大学 農学部大学院1年 堀内涼太郎

食糧危機 タンパク質不足

需要と供給のバランスの崩壊

全世界で生産されている食品は、その3分の1が捨てられています。その量は年に13億余った食品が捨てられ、途上国では飢餓人口が増えているという「食の不均衡」が問題

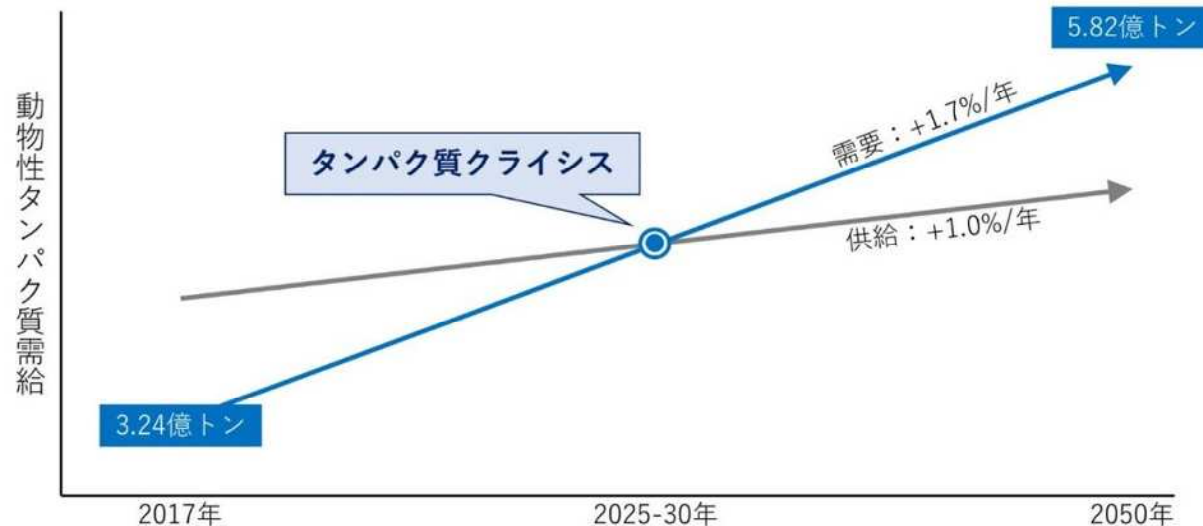
世界的な食料の需要は年々伸びている状態です。その理由は、「世界人口の増加」「所要の増加」「中国やインドなどの急激な成長」「バイオ燃料向けの農産物の需要増加」

世界人口は、2050年には92億人を超えると推計されています。中国やインドなどが発原で、肉などの需要が増えています（注11）。畜産物の生産には多くの穀物が必要です。11kgの穀物が必要となります。豚肉1kgには7kg、鶏肉1kgには4kgの穀物が使われるの

バイオ燃料を生産するために、原料となるトウモロコシなどの農産物の需要も増加して対策、エネルギー安全保障への意識の高まりなどから、バイオ燃料の生産が拡大している穀物生産の13%、植物油生産の15%、サトウキビ生産の30%がバイオ燃料の原料として競合することが懸念されています（注13）。

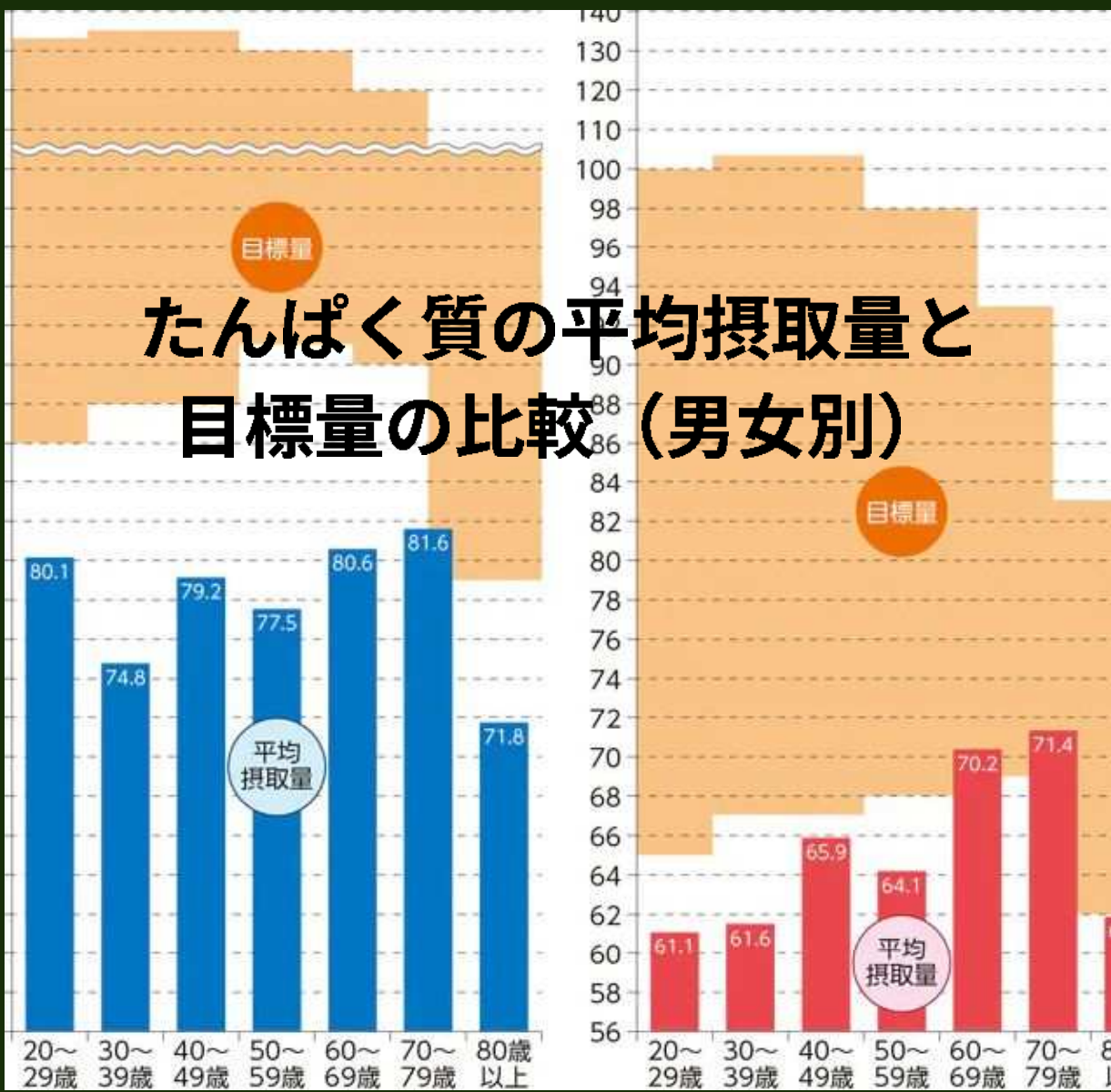
これらの需要に対して、供給がなかなか追いついていないのが現状です。農業技術などが向上して面積当たりの収量は増加しましたが、「異常気象の頻発」「砂漠化の進行」「水資源の制約」「家畜伝染病の発生」などにより、供給は不安定な状態にあるのです（注11）。

タンパク質の需要が供給を上回るタンパク質クライシス



食糧問題とは？ 世界の食糧問題の原因と解決策を考えよう参照

たんぱく質の平均摂取量と 目標量の比較 (男女別)




(出典:たんぱく質の平均摂取量は厚生労働省「国民健康・栄養調査」、目標量は厚生労働省「日本人の食事摂取基準2020年版」)



SAVE ENVIRONMENT

なぜ昆虫の中でも、コオロギを選ぶのか

- 生産時のCO2排出量少ない
- ロス野菜や規格外品を餌にできる
- ライフサイクルが早く、省スペースでの養殖が可能

A close-up photograph of two hands held up, palms facing forward. The hands are positioned centrally, with fingers spread. The skin tone is light. The background is a soft, out-of-focus light color. The entire image is framed by a dark green border. Overlaid on the hands is the Japanese text "マイナスイメージが強いが" in a bold, white, sans-serif font.

マイナスイメージが強いが

コオロギの栄養特性

- 高タンパク, 低脂肪
- 旨味, 出汁が取れる
- クッキーやラーメンなどの食品への汎用性が高い
- 必須アミノ酸, 食物繊維やビタミン, ミネラルなどが豊富



環境問題とSDGSとの関連

2 飢餓を
ゼロに



13 気候変動に
具体的な対策を



15 陸の豊かさも
守ろう





SAVE ENVIRONMENT

これまでの活動





11/9 モモスタ ピッチコンテスト

昆虫食にチャレンジしよう

コオロギBAR

2024

1/12-14

19:00~23:00

ChallengeBar
カタルシスOKAYAMA

岡山県岡山市北区奉還町4丁目12-22

最近、昆虫食が注目されているけど、抵抗感がある方も多いのでは？
パウダーなど見た目を気にせず食べられる商品もあります。新しい食
体験にチャレンジしてみませんか？

コオロギスナック
コオロギカクテル
乾燥コオロギ



養殖場の様子







SAVE ENVIRONMENT

これからの活動





SAVE ENVIRONMENT

法人設立

スタートアップ企業

として社会課題に挑む

—Grow Plus—

完全栄養食×コオロギ



※イメージ

OUR AIM

SAVE ENVIRONMENT

コオロギをゲテモノから食材に



世界を健康に
環境にやさしく未来へ

InsectFusion

THANK YOU

コオロギを日常にそして世界に

InsectFusion